

街の課題に寄り添う図書館のあり方を探る
～ヒグマのすむ街の図書館にできること～

鈴木 智保
札幌市中央図書館

1. はじめに

第22回ビジネス・ライブラリアン講習会のワークショップ課題として提出した事業案は、札幌市中央図書館における副業支援であった。札幌市の問題点である出生率の低さ¹と年収の低さ²に着目し、その解決の為の一策として、現在国からも推奨される副業を支援する提案とした。アドバイザーの小廣先生からは副業で札幌を元気にという視点を評価していただくと同時に、更に具体的に札幌の課題を入れ込んだ提案にしてはどうかとアドバイスをいただいた。

受講前の自分に欠けていたのは、竹内先生が講義で話されていた「私の街を、私が守らなくて誰が守るのか」という地域の課題に対する「当事者意識」である。今自分の住む街が何を問題にしている、どんな魅力があって、どのような街づくりを考えているのか。図書館による支援を考えるにあたり自治体の産業振興計画や施策について知っておくことも大切であると講義の中で学ばせていただいた。そこで、副業支援よりも更に具体的に街のためにできることはないか、札幌市の施策を視点に加えて再考し、新たに市のヒグマ対策への支援を提案することとした。

2. 札幌市の図書館について

2-1 概要

札幌市には札幌市中央図書館（以下、中央図書館）を中心として、地区図書館や区民センター図書室など47か所の図書施設が存在する。ビジネス支援に特化した「札幌市図書・情報館（以下、情報館）」・未就学児対象の「えほん図書館」などの機能分館があることも札幌市の図書館の特色である³。

2-2 中央図書館と自館におけるビジネス支援について

中央図書館は都心から約4kmの文教地区に位置している。都心からの距離においては若干利便性に欠ける立地だが車で来館する家族連れも多く、乳幼児から高齢者まで利用者層は多様である。約87万点の豊富な資料を有し地域資料の収集に力を入れている他、データベースや参考図書も充実している³。レファレンスカウンターも設置しているが、現在ビジネスレファレンスは主に情報館が担当している。

3. 札幌市の地理的特性と事業の背景（ヒグマに関する現状）

札幌市は約1,121 km²の面積を有する都市であり、このうちの約6割を森林が占めている。森林には多くの動植物が生育・生息しており、約197万人が暮らす大都市でありながら豊かな自然に

恵まれているという点が札幌市の特徴であり魅力である⁴。

市に寄せられるヒグマ出没情報の件数は、変動はあるものの概ね年間100~200件で推移している。多くは広大な森林を有する南区での出没だが他区が目立つ年もあり、また市街地やその周辺での出没が増加傾向にある。(図1)⁵。2021年6月、住宅街に出没したヒグマが4人を負傷させた事件は市民の記憶に新しく、また昨年は市街地に程近い三角山(私の家からも数百メートル)にもヒグマが冬眠していることが確認され話題となった。

「令和4年度第1回市民意識調査」(2022年6月実施)によると、ヒグマの市街地・住宅地への出没について9割以上が「関心がある」「やや関心がある」と回答した⁶。また北海道新聞データベースで「札幌 ヒグマ」をキーワードに検索すると2022年の1年間で約250件の新聞報道がヒットし、市民にとっても関心の高い問題であることがうかがえる。

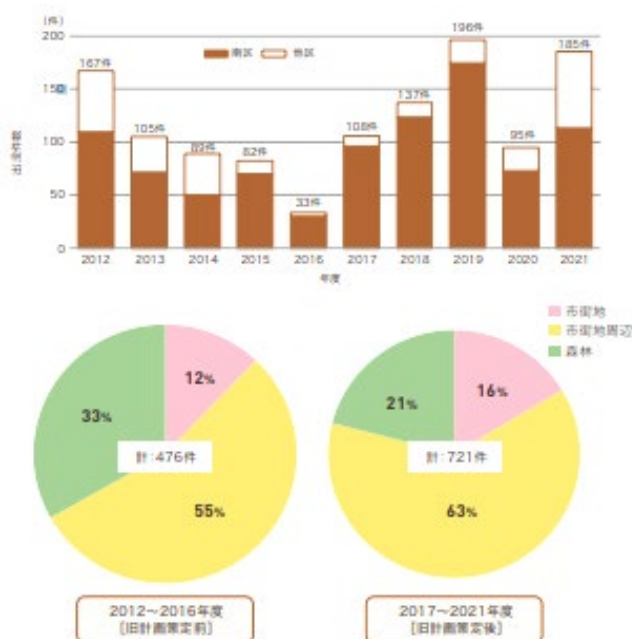


図1
過去10か年度分の出没件数(上)と出没地点の割合(下)
(さっぽろヒグマ基本計画2023より引用)

4. 札幌市のヒグマ対策

(1) これまでの主な取り組み

- ① さっぽろヒグマ基本計画(旧計画): 10区のうち森林を有する6区が対象
- ② 家庭菜園用電気柵の普及(貸出、購入補助)
- ③ 河川敷の草刈り活動(ヒグマが身を隠して移動するのを防ぐ為。地域や学生と協働実施)
・放棄果樹伐採活動(ヒグマの餌場となるのを防ぐ為。ボランティア団体と協働実施)

④講座等の普及活動

- ・さっぽろヒグマフォーラム:有識者や市立藻岩高校の生徒が講師となり昨年オンライン実施
- ・札幌市ヒグマパネル展2022:大型ショッピングモールで開催 など

(2) さっぽろヒグマ基本計画2023(以下、基本計画)⁵

「人は街で、ヒグマは森で。～すみ分けによる安全・安心な暮らしを目指して～」

2023年3月、今後の施策の方向性を示した新たな計画が策定された。この計画では「市民の安全・安心の確保」と「人とヒグマの共生」を目指しており、人の生活圏への侵入抑制策・出没時の対応・市民の意識醸成を基本目標としている。全区が対象であり、市を市街地ゾーン・森林ゾーンなどに分けて対策を講じる「ゾーニング管理」の概念を導入している点の特徴である。

(3) 浮かび上がる課題と図書館にできること

前出の市民意識調査では市民のヒグマに対する関心の高さが示されたが、一方で啓発イベント等の市の取組は4割以上の市民に知られていないことも明らかになった(図2)。同計画の課題の項ではこの点から、情報提供と啓発の必要性について述べられている。

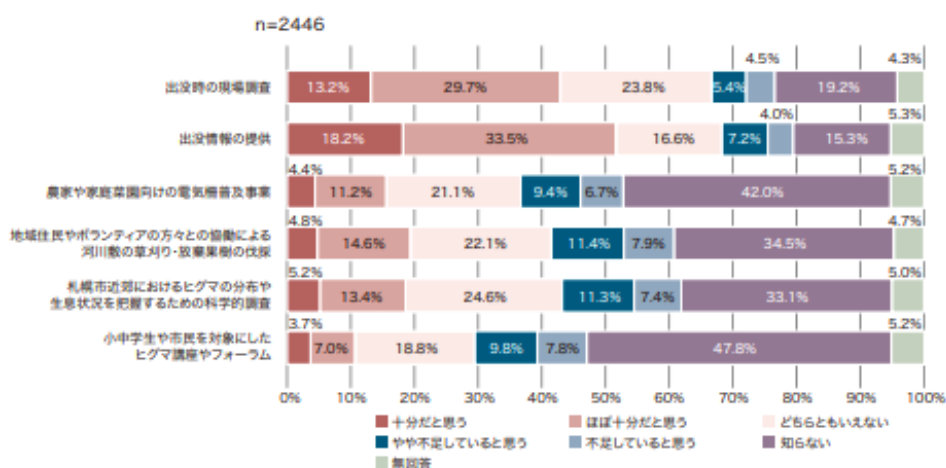


図2
札幌市のヒグマ対策への認知度と充足度
(さっぽろヒグマ基本計画2023より引用)

市のヒグマ対策を調査しての正直な感想は「私が知らないだけで実はいろいろやっていた」である。私は近場の山をトレッキングすることもありヒグマには多少関心のある方だが、それでも情報がとれていないという事実に広報の難しさを感じた。図書館という場に情報をまとめ、齋藤先生も話されていたように『うちに情報があり支援できますよ』と声を上げることで市民への情報提供と行政へのサポートができるのではないか、またこの問題を街の魅力につなげることもできるのではないか。そう考え次項では具体的な支援策を提案していく。

5. 図書館による支援事業

5-1 事業概要

(1) 常設展示「さっぽろヒグマ情報ステーション」

ヒグマ関連情報の集約・提供と、市のヒグマ対策に関する広報支援

(2) 企画展示「NO BEAR NO SAPPORO～知りたい!ヒグマの世界～」

ヒグマを多角的に紹介する図書館資料展示・講演会・市の取組と関連団体紹介・次項商品開発に役立つ資料や情報の展示

(3) 商品開発コンテスト「ヒグマのすむ街・さっぽろの逸品」

ヒグマ対策事業で伐採した植物を用いた商品開発支援

5-2 事業の目的と中央図書館で行う意義

まとまった情報を提供することでヒグマに関する市民の意識醸成を支援すると共に、厄介ごとであるヒグマ問題を街の魅力につなげるための支援を目的とする。

行政支援や地域連携の色合いの濃いこの事業は、地域に近いポジションでかつ多様な利用者層を持つ我が館の強みを生かす点からも、またビジネス支援に特化した情報館との業務分担の点からも、中央図書館で取り組む意義があると考えます。

5-3 中央図書館のこれまでの取組～CISE ネットワーク⁷との連携

CISE ネットワークは、北海道大学総合博物館が中心となり札幌周辺地域の科学館、動物園、図書館などの教育施設が連携して地域住民への実物科学教育を進める取組である。中央図書館はヒグマ・さけ・恐竜のワーキンググループに属し、学習支援用トランクキットの貸出窓口や連携展示等を実施している。とはいえ残念ながら、担当職員しか詳しく把握していないという現状にある。



札幌市図書館キャラクター
ヨムくん

5-4 具体案

事業案(1):常設展示「さっぽろヒグマ情報ステーション～ヒグマ情報、あります～」

ヒグマに関する資料(NDC489)の書架側面に小棚を設置。パンフレット・新聞記事スクラップ・出没情報・他団体の展示やフォーラム情報・ハンター育成情報・パスファインダー等を収集して置く。中央図書館のインスタグラムも活用。

また、「出前図書館」として各種フォーラム・展示に図書館も資料を持って参加。市の施策や他団体の情報を提供することができ、またフォーラム資料等の提供を受けて図書館資料登録することも期待できる。実施に関しては鳥取県立図書館の出前図書館を参考とする。

事業案(2):企画展示「NO BEAR NO SAPPORO~知りたい!ヒグマの世界~」

中央図書館では毎年郷土資料の所蔵展示を行っている。2021年度は札幌市制100年をテーマとし、古地図や絵葉書・時計台関連資料等約100点を展示し、2カ月間で1万人以上に見ていただいた。

ヒグマを扱う資料は、その生態に関するもの・小説やルポルタージュ(例:ヒグマによる最大の惨劇「三毛別ヒグマ事件」を題材にした『熊嵐(吉村昭/著)』等)・ヒグマを狩猟と信仰の対象とするアイヌ関連書籍など多岐にわたる。それらの資料とともに市の取組を紹介する展示を行うことでヒグマをより知って考えてもらうきっかけとする。ボランティア団体や CISE 等関連団体も紹介。CISE トランクキットに含まれるヒグマの毛皮等も展示することで視覚的に訴えることができる。次項(3)の商品開発につなげる資料や情報の提示も行う。

また、展示会期中には例年関連講演会を行っている。メディアでの解説も多い小菅正夫氏(旭川市旭山動物園元園長)や佐藤喜和氏(酪農学園大学教授)、漫画『クマ撃ちの女』作者安島藪太氏などに講演を依頼することで、市民へのPRがより進むのではと考える。

事業案(3):商品開発コンテスト「ヒグマのすむ街・さっぽろの逸品」

ヒグマの出没は深刻な問題である一方で、豊かな自然の象徴であり街の魅力の一つである。私自身もヒグマが身近にすむことを自慢に思う気持ち強い。

前出4(1)③河川敷の草刈りと放棄果樹伐採活動は、基本計画の主要な概念「ゾーニング管理」の具体策として継承される予定となっている。そこで、刈った植物を使つての商品開発をすることで、事業自体のPRに加え街の魅力アップにつなげられるのではと考えた。

①対象

学生(草刈り事業に参加している札幌市立藻岩高校、北海道大学、酪農学園大学・北星学園大学等の学生等)・一般市民・企業

②参考となる前例

北海道に多く分布するクマイザザ・チシマザサには笹紙や民芸品材料、健康食品素材としての用途があり、道北の幌加内町ではチシマザサを材料とした笹紙が特産である⁸。また、環境市民団体「エコネットワーク」主催によるサクランボ等の放棄果樹伐採では、燻製用チップへの加工やの参加者の持ち帰り(薪ストーブ用)などの取組も行われており、こうした活用も参考となる。具体的支援には広島市立中央図書館のビジネスプラン作成講座を参考とする。

③具体案

市主催のコンテストを開催。中央図書館ではプラン作成講座と優秀作品の紹介(展示やSNS等)を行う。

④展開事業

札幌市産業振興センター（ICC）⁹と連携して優秀作品を実際に商品化することも視野に入れる。

⑤主な連携先

- ・市環境局環境都市推進部環境共生担当課
- ・札幌市図書・情報館
- ・札幌市産業振興センター（ICC）

商品開発支援は、中央図書館単独ではノウハウや予算、人員の面で難しいため連携事業を想定。

5-5 まとめ

街の困りごとに市民が当事者意識を持てるような支援ができればと考え以上のような提案を試みた。開かれた図書館という場を生かし、各種フォーラム等の会場として、あるいはアンケートをとる場に使ってもらうことも可能である。まずは一つ声を上げることで街の課題解決のための図書館サービスを知ってもらい、市民や行政の担当者に活用してもらえるようになっていけばと思う。

6. おわりに

この度の講習会は、自分の住む街を見つめ、魅力や抱える課題を調べ、その解決や魅力アップのために図書館に何ができるのかを考え続けたものとなった。そこで気付いたのは、地域のことを考えて何とかしようと動いている人は既に沢山いるということである。その中で図書館に求められるのは、豊田先生もおっしゃっていたような「地域の触媒」としての役割であるという認識をもつことができたのは大きな学びであったし、また現代社会において重要な「情報」を扱う図書館司書の仕事を再考する大変良い機会となった。多く学んだことを、少しでも今後の業務に活かしていきたいと思う。

最後に、熱く講義を語っていただいた講師の皆様やアドバイザーの先生、共に学んだ受講生の皆様、陰で支えていただいた職場の皆様にご心よりの感謝を申し上げます。

《引用・参考文献等（ウェブサイトは全て 2023.5.10 に閲覧確認済）》

¹ 札幌市（2023）。「札幌市における人口動態総覧」。

<https://www.city.sapporo.jp/hokenjo/f9sonota/documents/jinkoudouttaisourann.pdf>.

- ² ハローワーク(2022)。「北海道札幌市の平均収入・平均給与データ」。
<https://hello-work.info/%E5%B9%B4%E5%8F%8E%E3%81%BE%E3%81%A8%E3%82%81/%E5%8C%97%E6%B5%B7%E9%81%93%E6%9C%AD%E5%B9%8C%E5%B8%82%E3%81%AE%E5%B9%B4%E5%8F%8E/>
- ⁰⁰³ 札幌市中央図書館(2022)。「札幌市の図書館」。
<https://www.city.sapporo.jp/toshokan/guide/sisin/liv/2022.html>
- ⁴ 札幌市(2022)。「札幌市統計書(令和3年度)」。
<https://www.city.sapporo.jp/toukei/tokeisyo/tokeisyo.html>
- ⁵ 札幌市環境局環境都市推進部(2023)。「さっぽろヒグマ基本計画2023」。
https://www.city.sapporo.jp/kurashi/animal/choju/kuma/housin/documents/1higumakeikaku2023_honsyo.pdf
- ⁶ 札幌市(2022)。「令和4年度第1回市民意識調査」。
<https://www.city.sapporo.jp/somu/shiminnokoe/sakusei/r040lanke.html#higumanitaisuruisikitosapporosinotaisakunituite>
- ⁷ CISE ネットワーク。
<https://www.museum.hokudai.ac.jp/cise/>
- ⁸ 幌加内振興公社。「笹紙について」。
<http://www.hm2.aitai.ne.jp/~row/kami/horokanai.html>
- ⁹ 一般財団法人さっぽろ振興財団 札幌市産業振興センター(ICC)
<https://www.city.sapporo.jp/keizai/contents/icc/gaiyo.html>

第22回ビジネス・ライブラリアン講習会資料

土井しのぶ。「広島市立中央図書館におけるビジネス支援サービス」。

小林隆志。「戦略的ビジネス支援サービスの展開」。

南沢地区まちづくり協議会(2012)。「『ヒグマと人との出会い』」。

続・となりのヒグマ 草を刈る(2020)。

<https://www.nhk.or.jp/hokkaido/articles/slug-n43c7197cf50f>